

令和6年度尾張旭市後期高齢者医療特別会計予算

討論要旨 榊原利宏議員

本案には、平均保険料で13.46%の保険料値上げが含まれています。金額で言うと9万1,117円から10万3,381円に値上げです。後期高齢者医療保険料には、この10年で見ると、2014年度の平均保険料8万2,584円ですから、2万797円が10年間で増加し、率にすると25.1%の増加となります。

さらに、今回の税率改正においては、全世代型社会保障の名の下に、国保や組合健保、協会けんぽの出産育児一時金を支援する仕組みがつくられます。出産育児一時金は42万円から50万円に引き上げられる、その財源にすることです。2022年度の実績に応じて各医療保険に概算交付されるとのことです。

しかし、全世代型社会保障は、社会保障の負担増、給付削減を進める代名詞であり、その最大の標的が高齢者です。高齢者の負担を増やし、現役世代に恩恵を回すというのは社会保障費への国の責任を後退させるものでしかありません。

出産育児一時金の引上げは、後期高齢者の保険料によらず、国が社会保障の充実を、保険料負担軽減を行う中で実施すべきと訴えて反対討論いたします。